学推だより vol.15

KOKURA
Elementary School
March 4th / WED / 2015
発行：学推担当

子どもたちに将来求められる力とは。

「これからの社会に求められる人材の育成」を読んで。

初等教育資料（平成２５年４月号）に，**「２０１１年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの６５％は，大学卒業時に今存在していない職業につくだろう。」**というデビッドソン教授（デューク大学）がニューヨークタイムズのインタビューで答えた次の記事が取り上げられていました。

これをもとに，山内祐平教授（東京大学）は右のように述べておられました。これらのような記事や論説を発端に，最近ではテレビや新聞等でも**「今ある職業の多くは無くなっていく」**という内容を伝えるようになっている印象を受けます。

アメリカを対象とした数字だが，国際化が進む世界では，一つの国で起こった変化は瞬く間に広がる。（今後は）職業が安定した存在ではなくなるだろうと考えている。

このような流れを受けて，様々な大学や企業から「これからの社会に求められる人材の育成」についての研究及び報告がなされています。その中から，研究者や文科省の先生方は，**「指導者中心から学習者中心へのパラダイムシフト」**を求めていることが伝わってきます。つまり，**授業観の大転換**を私たち教師に求めています。私たちが受けてきた２０世紀の教育（授業のあり方）をそのまま踏襲してはいけないというメッセージだと私は個人的に捉えています。

では今後，国立教育政策研究所が提案している「２１世紀型能力」を含めて，どんな力を子どもたちにつければよいのでしょう。また，どんな授業観に転換していけばよいのでしょう。これらの問いに対する答えの一つになる資料がありましたので，紹介させていただきます。次の表になります。

＜２０世紀＞	＜２１世紀＞
経済社会の後追い・成長（単一拡大）**成長社会**	経済社会の多様化・複雑化**成熟社会**
正解がある前提でそれを探し合う**正解主義**	正解の無い世界でチャレンジをくり返す**修正主義**
定められた問題に対する答えを埋めていく**ジグソーパズル型**	新たなものを創り上げていく**レゴ型**
みんなが一つの模範解答に向かって生きる**みんな一緒**	其々が其々のチャレンジをする**それぞれ一人ひとり**
定められたパターンで多くの情報を早く処理**情報処理**	状況に応じて必要な情報を判断・収集・解釈し行動へ**情報編集**
一つの企業の価値観に従い職業人生を全う**単一企業での仕事**	**複数企業で働く（職業の不安定化）**

※ 山口文洋氏（リクルートマーケティングパートナーズ）のプレゼン資料「２１世紀のキャリア論」より

また，未来学者アルビン・トフラー氏は**「２１世紀の非識字者は，文字を読み書きできない人のことではない。これまで学んだことに固執し，新しいことを学び直せない人を指すことになる。」**と指摘しています。とてもうちあたいしました。子どもたちに将来求められる力を具体的にイメージしながら今年度の授業実践を振り返り，これから求められる授業像について考えていきたいと思います。

【引用資料】　『初等教育資料　４月号』　文部科学省　著　東洋館出版社（2013）